



商 工 会 報

あ ち

第 53 号

発行 阿智村商工会
43-2241

編集 会報編集委員会

印刷 龍共印刷(株)



愛馬「豊花」と一緒に（写真左から、良人さんとお孫さんの諒くん、巧くん、楓ちゃん）

馬年に因んで 我が家に木曾馬がやってきた

はじめまして

私、木曾郡上松町生まれ、平成十三年五月七日生後八ヶ月の女の子です。この度、伍和の井原良人理事さん宅へもらわれてきました。名前は「豊花（とよはな）」と言います。どうぞよろしく。

今日は、商工会の方が取材に見えて私の主人とお孫さんを前にパチリ（写真撮影）。会員の皆さんも会いに来て下さいね。お土産の人参をお忘れなく…。

井原さん曰く、将来は子馬を増やして木曾馬牧場にしたいとか。木の香り漂う新しい馬小屋も拝見しました。元気な子馬のように本年は、落ち込んだ景気にも跳ね上がってもらいたいです。

編集委員 Y・F

「豊花」が井原さんにもらわれてきたのは昨年十一月。木曾郡上松町の丸山さんから貴重な一頭を譲り受けました。

「自宅で馬を飼いたい」

永年そんな想いに駆りたてられては半ば夢話と諦めてきましたが、夢を叶えた井原さんは活々とした表情で取材に応じて下さいました。

かつて木曾馬は、農耕の大切な労力として飼育されてきました。井原さんのお宅でも昭和四十五、四十六年頃まで飼育されていましたが、農業用機械の普及とともに馬を見かけることも少なくなっていたようです。近所の馴染みの顔が揃うと今でも馬の話で盛り上がるとのこと。

豊花が井原さん宅にやって来てはや三ヶ月。日中は自宅横の田んぼ（約七畝）を駆け回るのが日課です。近所の子供達が時々見学に訪れるそうで、小柄な体形はちょっとした人気の的。豊花も持前の人懐っこさで愛嬌を振りまいています。

良人さんに今後の希望をお尋ねすると「できたら小馬を増やしてみたいけれど…。余裕があるかな」と苦笑。加えて「地域を活気づけるようなことに役立てたいけれど」とも話して下さいました。

企業探訪

No.45



- <代表者> 石田 貞夫
- <開業> 平成8年8月(グリーンシーズン)
- <従業員> 計17名(男14・女3)
- <業務内容> 施設の営業及び管理
ゴンドラリフト保守管理
ゲレンデ整備(冬季)等
スノーシーズン営業
3月31日まで
グリーンシーズン営業
4月下旬~11月中旬

当社は、村・地元企業・金融機関などが参画出資して、平成8年8月にオープンしました。

冬はスキー場として、またグリーンシーズンはウォーキングやハイキングなどの自然散策を満喫できる高



スキーの楽しさを知る長崎の学生ら



原観光地として、都会からの利用客を集めています。最近、中高年層夫婦が安らぎと癒しを求めて訪れる傾向が増加しているようで、「ヘブンスならではの自然空間を演出しよう」と全従業員が一丸となって施設の衣替え作業や高原整備にあたっています。

ヘブンスでは今季、「ハローキティに会えるスキー場」としてリニューアルがされ、活気をなくしかけていたスキー業界にも刺激を与えました。

キティの誘客効果についてお尋ねしたところ、家族連れの来場が例年に比べ20%ほど増加。新設されたオリジナルショップでも、チケットホルダー、子供用スキーセット、ソリなどが好評で売れゆきもまずまずとのお話でした。

取材の中で、倉田千典専務は「顧客サービスの充実はもちろん、豊かな自然空間に私たちが付加価値をつけてお客様にご提供したい」と本物志向のこだわりをお話し下さいました。

スキー場営業は3月31日までですが、グリーンシーズンは家族でゆっくり森林浴を楽しんでみてはいかがでしょうか。

信金だより

寒い日が続く中、皆様お元気でお過ごしのことと思います。

さて、今回は信金よりお得な商品を紹介させていただきます。

昨年新登場致しました「しんきんフリーローン『金援隊(かなえたい)』」は、自由・かんたん・はやい、の3拍子で登場以来、お客様より御好評を得ております。

◎しんきんフリーローン「金援隊」



融 資 額 10万円以上300万円以内

(1万円単位)

期 間 6カ月以上5年以内

貸出利率 年8.80%(保証料込み)

保 証 人 不 要



以上に加えて、お使いみち自由、簡単な手続き、迅速な審査結果など、魅力たくさんの商品となっております。

このほかにも、お客様の御要望に応じたローンを多数ご用意しておりますので、お気軽にご相談下さい。職員一同お客様のご来店をお待ちしております。

シリーズ

我が家の秘蔵写真

丸賀屋
加藤公子さん
所蔵

第31回

この写真は、智里大野の加藤公子さんの父・六郎さんが生前、コンニャク芋栽培に奮闘していた頃の貴重な一枚です。

当時はまだ小学生だった公子さんですが、「店を経営する傍ら、慌ただしく畑に出掛けていく父の姿は今も鮮明に

脳裏に焼きついていきます」と懐かしい当時の様子を語って下さいました。

今をさかのぼること四十七年前（昭和三十一年）。当時の智里地区では、農地の普及改良に伴ってコンニャク芋の栽培が精力的に行われました。

しかし、この頃の栽培技術はまだまだ低く、追いうちをかけるように災害で畑が荒らされることも度々。当初は、新たな作物を夢見た農家がこぞって栽培に挑みましたが、多くは志半ばで断念してしまいました。

そんな中、持ち前のガッツと強い向上心で六郎さんは栽培に挑み続けました。六郎さんは、種芋が冬の間腐ってしまう問題をそれまでの「土室貯蔵」から「電熱貯蔵」に切り替えることで解決したり、連作障害を防ぐために冬期間は天地がえしを頻繁に行って改良につとめました。そんな努力が実を結び、順調に収益を伸ばしていったそうです。



コンニャク芋を手にする六郎さん（昭和三十七年頃）

「天からの贈り物・峠の釜めし秘話」 成功の秘訣は 常に問題意識を持つことから

新春
講演会



健康の秘訣は「真向法体操」にあり

田中先生が健康な心身を維持するため三十年余り続けているという「真向法体操」を披露されました。



田中トモミ先生

た田中トモミ先生をお迎えし、「天からの贈り物・峠の釜めし秘話」と題してご講話いただき、地域住民、商工会員が耳を傾けました。

阿智村商工会恒例の「新春講演会」が一月二十四日、商工会館に於いて開催されました。

今回は『峠の釜めし』を創案され、今では年商百五十億円の日本一の弁当に育てあげ

田中先生は、身のまわりで起きた不幸や、病弱だった姉に頼まれて当時は経営不振だった萩野屋を切り盛したことなど紹介されました。その中で、「いろいろな言葉や物、人と人の巡り合いが懸命に生きる糧になった」と当時を振り返り「問題意識を持つことこそが新たな発見、アイディアを生み出す道。明日を信じて元気に過ごしてほしい」と聴衆を激励されました。

講演の最後には、

性化のために 総務部



行政懇談会開会の一場面

「行政懇談会」が二月八日、村長・助役・正副議長・議会産業建設常任委員会・担当課長を迎えて、商工会理事と開かれました。村政の現況を勉強し、商工業者の声を反映させる目的で、年一回開催しています。質問・要望事項の中には、今後研究・検討がさらに必要である内容もあり、会員それぞれの立場で問題を考えなければと思います。

質問 村の制度資金を受ける為の審査方法の簡略化はできないか。従来の融資枠五百万

回答 円を、一千万円に引き上げ出来ないか。信用保証協会並に金融

機関等と連絡をとりながら簡便化したいと考えます。村は昨年四月「不況対策特別資金」を貸付限度五百万円で設けました。二分の一の利子補給を助成しております。経営者の中には「保証協会の審査が厳しいのでは」との指摘もありますが、公金を当てる為、ご理解下さい。その他の貸付については従来通りであります。

質問 民間宿泊施設を圧迫している公営施設の廃止は出来ないか。「湯ったり〜な昼神」の利用状況は。

回答 「公営施設が民間を圧迫している」とのご意見ですが、民間には『経営努力』こそ必要ではないでしょうか。公営施設の廃止は考えていません。

「湯ったり〜な昼神」
(一月末現在の利用状況)
入館延数 十三万三千人
村民 二七%

内訳 旅館・ホテル送迎七%
券売利用 六六%
水中運動の利用は約四千人の現況です。

質問 村内に約九十基ある街路灯について、十年余が経過しています。最近では地域の

防犯灯の役目もしていますので、整備の為の助成を考えていただけませんか。

回答 全ての街路灯が防犯灯の役目を果たしているとは言いきれないが、整備の必要な箇所を調べた上で費用等の問題を含め検討したいと考えます。

要望 智里西地域を、もっと都会の人達に利用してもらえ様に施設の充実とPRに力を入れて欲しい。

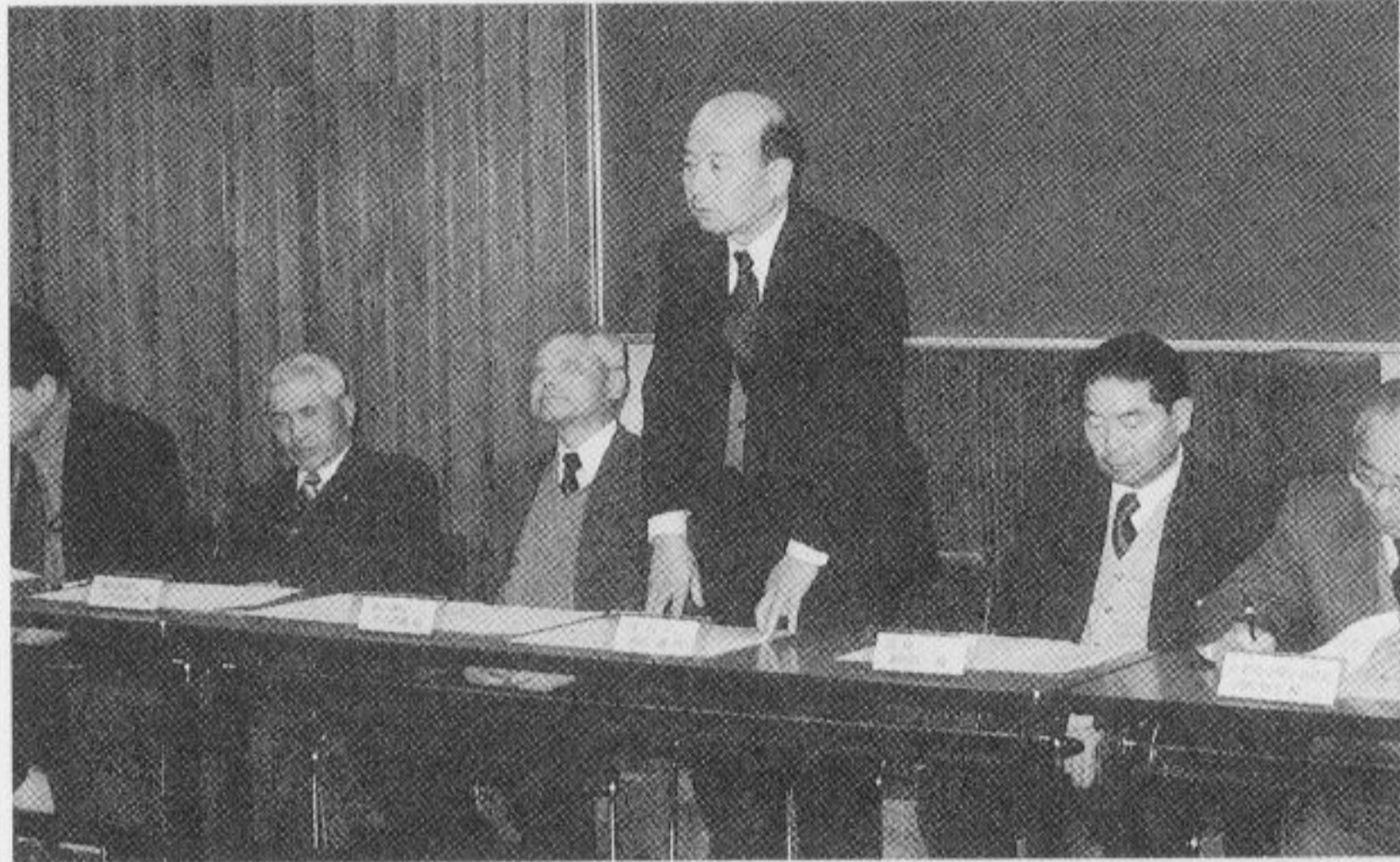
回答 村民から寄せられたアイデア・意見等を参考にしながら、今後の活用方法について考えていきます。

要望 支援センター(伍和)の味噌加工に対して、一千万円の助成を行うようですが、今後の事業が成功するよう協力したい。

回答 経済資源である地元農作物の付加価値を引き出せるよう事業の研究をはじめ、販売ルート等においても内発的な発展を遂げてもらいたいと思います。

行政懇談会

商工業者活



答弁する岡庭一雄村長（中央）

要望 天竜公園線のルート改良に伴って村道化される駒場商店街一帯についてですが、

質問 昼休みの時間に帰宅する役場職員を見かけるが、緊急時などの対応は大丈夫なのか。
回答 昼休みは勤務義務のない時間帯であるが、職員にはできうる限り庁内に留まらせるようにしたい。現在役場では、三百六十五日庁舎を開放しており、平常であれば夜八時まで、土日も七時半～正午まで窓口業務に対応しています。緊急時の連絡体制も重くとらえておりますのでご理解下さい。

質問 新規施設の備品購入について、業者から一括購入するのではなく、分割購入という形で地元商店を利用してもらえないか。

商店街をゆっくり見て回ることでできる散策路を整備して観光活用していただけないか。また、防災無線を商業活動に活用できないか。
回答 村民皆さんの発案で、商店街も様々な活動が可能だと思います。具体的な提案として参考にしていきたいと考えます。防災無線を商業活動に利用することは難しいですが、村で予定している「情報化に関する研究会」で幅広いご意見をいただきたいと思います。

要望 公共事業の施設建設等

回答 コストを考慮しても業者からの一括購入で対応せざるを得ませんが、地元を活用できるようケース・バイ・ケースで対応して参ります。

設等で地元小規模事業者を利用して欲しい。また、大きな工事については単体で受注できない現状もある為、村内業者が受注できるよう村からのご指導をいただけないか。

回答 低コスト、情報分析の点でも太刀打ちできない現状ですが、地元業者を優先することが方策としてできないか検討し、協力できる形をとりたいと考えます。



質疑にて（中央＝橋本女性部長）

おわりに

過酷な経済社会を生きる私達ではありますが、皆さんからの意見・提案なくして明るい未来を切り開くこともまた困難です。地域経済を支える商工業者の提言が、落ち込んだ情勢をつき動かす原動力になってくれればと思います。

指導カルテ

No.12

我が社は、何のために

経営指導員 佐々木 信 高

昨年は、皇太子妃雅子様のご出産という明るい話題はあったものの、長引く景気の低迷、米国のテロ事件、アフガン戦争、狂牛病等々、大変暗い一年でした。新聞記事には「戦」の漢字一文字で世相を表わすところもありましたが、正にその通りの年でありました。

本年は、ぜひ明るい年となるように念願するものです。

今、日本の経済・社会は、長期に渡る景気低迷から、構造改革、財政の抜本改革を避けて通れなくなっています。

また、金融不安や失業問題、中国への生産拠点の流出、ペイオフの実施等大きな課題を抱えております。

戦後五十七年、今や成熟し安定した経済社会になりましたが、一方で、一人ひとりが自ら考え、自ら決断し、自ら行動していく歩みを求められる時代となりました。

誰かがやってくれるという他力本願や依存体質の時代は終焉したということです。

金融機関の破綻、大手企業の倒産、縮小等、今や企業経

営者にとって何が起きても不思議で無い時代になっていきます。

先日、ある雑誌に、東京の靴製造会社（従業員七十人）が倒産し、その後、個人で再起した経営者の談話が掲載されていました。この経営者は、最初の会社では、目的をたず金儲けだけに走っていて倒産してしまいましたが、二度目の靴製造では、高齢者のための靴づくりを念頭に置いて「ジジババ」の靴を製造販売したところ大変軌道に乗っているということでした。

松下電器・本田技研・ソニーの創業者は、「世の中のためになるには、どうしたら良いか」と考え事業を始めました。「人のために」と考えることで企業は成長しました。経営者の皆さんも、今一度自分の企業が「何のために」あるか再考してみたらいかがですか。



接客講習会

「心豊かなおもてなし」を

昼神温泉旅館協同組合 研修委員長

玉井古友（薬師館）

春がまだ遠く感じられた二月二十日、平成十三年度の「接客講習会」が昼神温泉観光センターで行われました。生け花作家の河田光子先生をお迎えし、「生け花でお客

様を心豊かにおもてなしする」という内容のお話をお聞きしました。



「細かな気配りのなかにこそ…」



河田光子先生（左側）

講話をお聞きする中で、まず材料の花は地元にある花で良いと言うこと、また生ける器も空缶・空ビンなどに和紙等を包装することによって季節感を見事に演出できることなどを教えていただきました。

した。空缶、空ビンはどこにもあるし、ここには自然の材料が野原、河原などにいっぱいあります。それらを利用して生け花だけでなく、他にも色々な利用ができるなと思いました。今回の講習は、物の利用方法『身近にある物をいかに利用するか』という一点にあっただかと思えます。「心豊かなおもてなし」が出来るよう努めていきたいです。

女性部だより

無心に花と向き合った
～アレンジ花講習会～

折山 みゆき



説明に聞き入る受講者

十二月十八日に、商工会女性部の「便利大学」に参加しました。子供から大人まで三

十五名が「クリスマスアレンジ花」を習いました。生け花しか知らない私は、初めてオアシスに向かっ

て、形良くアレンジしようと思いましたが、小さな松ボックリを入れると、クリスマスマスの雰囲気が出てきます。無心に花と向かい合っていると……忙しいばかりの自分にも、「たまにはこんな時が欲しいな」と感じました。自由にアレンジできるオアシスの使い方を知り、今もアレンジ花にはまっています。

便利大学では、これま



それぞれのアレンジ花が会場を彩った

でに巻寿司も習いました。地元のプロの方にコツを教わることができ、なかなか作る機会の少ない巻寿司にも興味を持つことができました。特に花の巻寿司は初めてで楽しかったです。村内には、様々なプロの方が技術や知識を持っていらっしゃいます。地元の人材を生かし、地域の方々とふれ合いながら手作りの輪が広がっていく事は、大変素晴らしい事だと思えます。

私は和やかな雰囲気の中で、皆さんから多くの事を学ぶ事ができる「便利大学」に期待を寄せています。

青年部だより

奥様・子供も楽しんだ
初めての「家族親睦会」

中島 昌 枝 (中島正博妻)

二月二十四日に家族親睦会に参加させて頂きました。今まではお父さんだけ(?)のスポーツ大会だったのですが、今年もは普段お留守番している子ども達、奥様を労って下さるといふ素晴らしい企画。会員の方々の美味しいお料理もとても嬉しいおもてなしでした。運だめし、ビンゴゲーム、

信号ゲームなど、楽しいゲームに、子ども達は大喜び!!たくさんのお景品もいただき、とても楽しかったです。中でもTVでお馴染みの信号ゲームは盛り上がりました。座っている順に大人も子どもも答えていき、答えに詰まったら恐怖のバツゲーム。わさびのいっぱい入ったお寿司を食べる。(子どもが答えられなかったら親が食べる)



「運だめし」で盛り上がる子供たち

残念ながら我が家は、バツゲーム独走状態でした。いい頭の運動になりました。子どもも大人も楽しいひとときを過ごさせて頂き、本当にありがとうございました。

青年部の皆様、これからも元気のいい活動とご発展をお祈りしています。今後とも、よろしくお願ひ致します。

青年部便利大学

今日も世のため 人のために

青年部副部長 竹村 学

恒例となった商工青年部の「便利大学」が

二月十二日、村中央公民館二階の調理室で行われました。今回はテ-

マを「身近な食材で出来る簡単料理」と銘打ち、調理人として活躍している部員のうち三人が中心となり、集まった二十余名の受講者に手軽に食卓を彩れる料理のポイントをアドバイスしました。

今回紹介した料理は「手まり寿司、みぞれ鍋、肉しゅうまい」の三品。簡単にできるとあって受講者も積極的に実習に加わり、それぞれのメニューを美味しく調理するコツを学びました。

ここで、当日調理したメニューを皆さんにも紹介します。「手まり寿司」は、マグロ・イカ・タイなどを薄切りしラップを使って寿司めしに巻き付けます。団子状のかわいらしいお寿司で女性にも食べやすいと思います。

「みぞれ鍋」は、ダシ汁とたっぷりの大根おろしをベー

スにした鍋で、あっさり感が食欲をそそります。

「肉しゅうまい」は、豚挽玉ねぎをメインにした一品で

おつまみやおかずに最適。当日はスプーンの柄を使った包み方なども実演しました。

実習後の試食会では、受講者からの質問や意見を聞くこともでき、今後の便利大学の在り方を探る上でも大変貴重な時間となりました。

最後に、今回の便利大学を



参加者も積極的に「はい、一丁あがり〜」

振り返り感じたのは、知りた
い側と教える側には明らかに
食い違いがあるということだ
した。しかしその一方で、消
費者が求めているものは部員
各々が日常の対話の中から発
見できると実感しました。

編集後記

二十世紀二日目、本年は
午歳、躍進あるのみ。

一面に井原良人理事の愛馬
『豊花』を紹介します。地域
に親しまれ、一躍も二躍も活
躍されんことを願っています。

今年には昨年より平和・安全・
景気回復の明るい年にしたい。
経済誌に米国経済が後半には
徐々に回復、立直りを見せる
ようだ…。

所得税の確定申告が先日終っ
た。「税は国の基本なり」会
員それぞれ、法人会、青申会
等に参加され、納税義務を果
たしているが、国政は何をし
ているのか。税務幹部の天下
り、税金喰い、外務省の不透
明な税金の流用等々、商工業
者の怒りはどこにいけばよい

お知らせ

不要備品ゆずります

商工会事務所で使用していた、ワープロ、ファクシミリ各1台を価格相談の上、お譲りします。ご希望の方は4月10日までに商工会（TEL43-2241）へご連絡下さい。

のか。

岡庭村長さんが二期目を無投票で当選された。心よりお祝い申し上げます。

「寄らば大樹」でなく、地方自治の自立を進めるべく昨年六月、政府が行政・財政改革で地方への推進を打ち出した。阿智村も昨年、村づくり委員会を発足した。村行政の素早い対応に期待したい。

県予算案に商工団体補助金削減が盛り込まれている。商工会員の積極的提案・参加により二十一世紀型地域づくり、商工会活動に取り組まなければと考えます。

会報編集委員長 井原忠亮

（次回会報は七月の予定です。情報の提供をお待ちしています。）